

## B-VI-2

### 頭部外傷後遷延性意識障害患者へのシロスタゾール投与による嚥下反射改善の検討

自動車事故対策機構岡山療護センター薬剤科<sup>1</sup>, 脳神経外科<sup>2</sup>, 精神科<sup>3</sup>, リハビリテーション科<sup>4</sup>

○山村博子<sup>1</sup>, 本田千穂<sup>2</sup>, 吉田英統<sup>3</sup>, 丸尾智子<sup>2</sup>, 萬代眞哉<sup>2</sup>, 森川明子<sup>4</sup>, 椿坂康之<sup>4</sup>, 衣笠和孜<sup>2</sup>, 西本 詮<sup>2</sup>

**【はじめに】**シロスタゾールは脳梗塞慢性期における嚥下反射を改善し、誤嚥性肺炎に対する予防作用を有する薬剤であることが示唆されている。われわれは、交通事故での脳損傷による遷延性意識障害患者にシロスタゾールを投与し、脳梗塞慢性期と同様に嚥下障害が改善されるのかを検討したので報告する。

**【方法】**対象は交通事故による頭部外傷後遺症で当院入院中の患者 12 名で、男性 9 名、女性 3 名。年齢は 12 歳から 76 歳、平均 40.1 歳。シロスタゾール 50～100mg を 1 日 2 回に分けて投与し、投与前後で嚥下潜時を比較して効果を判定した。嚥下潜時測定は、体幹 30 度ギヤジアップ頸部前屈(下顎突出)位でメンティップに冷水を含ませて中咽頭(口蓋弓から舌根部+咽頭後壁)を刺激し、嚥下が起こるまでの時間を 5 回測定、その平均値を嚥下潜時とした。

**【結果】**嚥下潜時は、シロスタゾール投与前では平均 8.71 秒、投与後では 6.27 秒であり、短縮がみられた。また、正常な嚥下反射(嚥下潜時 3 秒以内)の回数も、投与前では 125 回中 21 回(16%)であったのに対し投与後では 110 回中 41 回(37%)と増加していた。副作用は 12 名中 7 名に発現し、その内容は頻脈 3 名、筋緊張亢進 3 名、血尿 1 名で、投与中止により消失している。

**【考察】**脳損傷による遷延性意識障害患者にシロスタゾールを投与すると、嚥下反射が改善されることがわかった。このことから遷延性意識障害患者においてもシロスタゾールは誤嚥性肺炎の予防効果を有すると推察されるが、重症の頭部外傷患者では高位からの神経のコントロールが低下しているため頻脈や筋緊張亢進等の副作用が出やすく、投与する際には副作用に注意が必要である。